常磐文藝

民謠

飯村閑舟

△憂鬱

寢れ、果てし
この身は
暗よ。

△山奥

柴を、刈る
父無言に
歸る。

禁じ、こもつた
ひとへや
寂し。

乳の、煙りは
戀しい
家よ。

月は、うつとり
やみぢを
示す。

子供、愛らし
みやげは
話し。

大々的勉強仕

☒小量ニテモ御用命ノホト願マス
迅速ニ配達致シマス
（コンクリート用）
砂利及砂
中山岩採堀販賣
此レニ附隨スル
土工請負業

岩石材商會
南町火見下
電話呼出二六七番
主　鈴木彌米

獨逸高級眼鏡
（メニスカス）
問『メニスレンズを何んで皆さんがお好みになるのです』
答『掛け心地が良くて眼や腦へは絶對弊害がなく晴々するからです』
弊店眼鏡部は各國品多數取揃へ電力應用で速時調製します
平町一丁目
常盤屋時計店
電話三三九番

今秋の流行品
中折帽（一圓八十錢ヨリ十三圓五十錢迄）
サシ帽（二圓ヨリ四圓五十錢マデ）
鳥打帽（九十錢ヨリ三圓五十錢マデ）
子供帽色々
最新式豐富ニ揃マシタ
磐城平町
鶴屋
電話百四十番

建築ペンキ塗
美術諸看板
硝子金銀文字
其他各種
平町四丁目
大音堂

自動車運轉手及助手募集

一、運轉手　拾名
二、助手　拾名

身体强健志操堅實ナル者採用シタシ
勤務ハ日中九時間、毎日曜休暇（給料其他面談の上）
希望者ハ本月末迄ニ履歷書（免狀ヲ有スル者ハ免狀ヲモ）持參庶務係マデ出頭相成度

大正十三年十月

内郷村大字宮
磐城炭礦株式會社
鑛業部

清酒醸造元
磐城仙拳
石城郡平窪村
松吉屋本店
電話二四一番

買イ女子イ店
ルヽ壹ク安ヲ品ヲ良イ
クーリー
クーストーリ
關内藥舗
助藥内閣師劑藥
電話四〇〇番

眞に是れ鬼に金棒！
耐火耐震耐久力の絶大なる
日本コンクリート鐵網と
抜群優秀なる斯界の權威……
磐城セメントを推奨す
最も經濟的に然も超越せる無比の良材
（施工設明書を進呈致します）
特約代理店　平町五丁目
和洋銅鐵
金物問屋
久釜屋商店
電話局九番、一三九番

株式賣買中値

電話に金融致します

銘格	拂込	時價
磐城銀行	四五〇、〇	四五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一二、五	一〇、五
磐城實業	五〇、〇	四二、〇
磐城實新	三〇、〇	二八、〇
田村實銀	一二、五	一二、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二四、五
同　新	一五、〇	一八、八
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同　新	一二、五	一六、〇
七七銀行	一二、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	四〇、〇
同　新	二五、〇	一九、〇
只見川電	一二、五	七、五
植田水電	一二、五	一五、五
好間水電	一二、五	一三、〇
磐城建物	一二、五	五、〇
磐城製菓	二〇、〇	二、五
平信託	五〇、〇	二五、〇
磐城勸業	一二、五	一三、五
植田物産	三〇、〇	二六、〇
平製氷	二五、〇	一八、〇
好間軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	三二、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	五、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同　新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六二、五
同　新	三五、〇	四二、〇
平運送	一二、五	八、〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願上候

平町田町　電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

常磐毎日新聞

十月八日夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月壹錢　郵税五厘
廣告料　五號十二字詰一行　五十錢
休刊　日曜大祭日　祝日ノ翌日

發行兼編輯人　川崎文治
印刷人　福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
發行所　常磐毎日新聞
福島縣石城郡平町鍛冶町十一
印刷所　本社專屬　磐陽社

社説

淺薄なる研究よ（十三）

川崎文治

大灌發電所の設置は元より平水道の脅威に相違ありませんが企業會社が誠意を以て以上の要求を容るる事になれば平水道の安全を期する上に甚だ有利なるばかりでなく電氣の需用は年と共に旺盛に赴く時に於て大瀧發電所が平町の近部に起り然もこれが地方人に依つて經營せらるゝ事は地方産業の開發の上に多大の効果あるものと信じます、平町民諸君は須く從來の行懸りを捨てゝ吾人の主張に同ぜられん事を希望致します

是れは平上水道研究會の發表した意見書の結論である此結論に依つて是れは大瀧發電所の設置は平町水道を脅威するものである事疑なく研究會は明らかに其相違なき事を言明して居る、斯くの如くんばまた吾人三萬の町民が子孫に殘す恨事なりとして極力其設置を反對する理由も自から明かであらう、然るに研究會が其脅威を知りつゝ尚ほも發電所の設置を承認し電氣會社と協約して以つて脅威を除かんとする眞意は一体奈邊に彷徨して居るのか不可解至極である。由來平町上水道は其水源を好間川の淨水に求め是れが使用の權利を獲得して永久安全に是れを使用し得るものである、此權利たるや何人と雖も侵すべからざるものである、然るに此權利を抛棄して新たに水源を他に求めんとし、而かも盛衰極りなき一營利會社と協約して該會社の分水に俟たんとするのは是れ明らかに電氣會社を庇護して一町の危害を顧みざるものと謂ふべく研究會の研究其ものに對して頗る怪訝に堪へざる處である　（續く）

縣下各地の職工賃銀

福島商業會議所の調査に依る本月初旬現在福島、若松、石城郡山の三市並に平町に於ける一般職工の賃銀を各地比較して見ると左の如である

職格	福島	若松	郡山	平
大工	二、六〇	二、八〇	三、〇〇	二、五〇
左官	二、七〇	三、〇〇	三、〇〇	二、八〇
仕事師	二、七〇	二、五〇	二、〇〇	二、〇〇
石工	二、八〇	三、〇〇	三、〇〇	二、八〇
瓦職	二、六〇	二、八〇	三、〇〇	二、五〇
指物職	二、六〇	二、八〇	三、〇〇	二、五〇
左官	二、八〇	三、〇〇	三、〇〇	二、八〇
鍼灸	二、五〇	三、〇〇	三、〇〇	二、八〇
人夫	二、六〇	三、〇〇	三、〇〇	二、五〇
男	一、六〇	二、〇〇	一、五〇	一、五〇
女	八〇	一、二〇	一、二〇	八〇

福島地方裁判所の不支部が廢止の噂

事件數は東北第一

眞疑不明と齊藤君語る

政府の財政整理の餘波を蒙つて平區裁判所の中に併立されて在る福島地方裁判所平支部も近く廢止さるゝ運命に遭着したとの噂がある果して然りとすれば

平地方の一般民が蒙る不利益は非常なものであつて政府の遣り方は官廳の經費を節減せんが爲め反つて國民の負擔を增大せしむるものであるとの批難が多い、噂の眞疑を確かむる爲め齊藤書記の談を叩けば

『成程、僕等もそんな噂は聞いて居る、而し君當支部の受理**件數は**民事と刑事を合して毎月二百件內外であるから件數の多い事は東北第一で盛岡の裁判所も平支部の件數には到底及ばないのである、殊に當支部が大正二年に一度廢止され同七年復活した時の理由は件數の如何と云ふよりも福島市と甚だ遠隔の土地に位し地理的に不便が多いからとの理由で復活する事になつたのだから他の支部はいざ知らず、まさか當支部の廢止さるゝ樣な事はあるまいと信じて居る、而し是れは僕個人の意見だから噂の眞疑は不明である』と語つた

石城郡の氣溫と稻作

豐作の前兆

水稻により出穗開花期に次ぐべき重要期間として九月三日から十月三日迄の本郡氣象は九月上旬は降雨連續して氣溫の下降を來し中旬に入るも猶平年に比し稍々低下の有樣を示したが下旬に入つて上昇し平年よりは約一度五分の高溫を示し尙ほ期間としては良好と思ふべきではなかつたが餘りに甚だしき下降ではなかつたので稻作成熟上に何等の障害をも與へなかつた模樣で日照時は百四十四時間九、降水量二百四十時間一分平均、氣溫十九度二分で前の伸長開花二期に於て既に好適なる氣象の經過を見た上此日照時の多かつたので豐作の兆であると

× ×

鑛毒問題に關し

內鄕村民磐炭に肉迫

四萬八千圓の損害と主張

折惡しく所長不在

石城郡內鄕村にては鑛毒問題に關し昨夕管波村長以下十八名の委員が賠償要求を提げて磐城炭礦に永室礦業所長を訪問したが

折惡しく同所長及び靑沼經理課長不在の爲め代つて濱崎庶務課長に會見被害程度を詳述し田地百四十二町歩が鑛毒を蒙つて其四割七分六厘は減收を免れざる爲め總べての損害を見積り四萬八千圓に達すべきを主張し相當賠償の責を果され度き旨陳辯せる爲め濱崎課長は

主腦者不在なれば追つて協議を爲し且つ當炭礦のみの鑛毒を受けしものにてなき事は從來の調査に徵し明らかなるを以つて附近十二ヶ所の各炭礦とも審議の上相當の處置を講ずべき事を約し折惡しく**所長不在**の爲め**今後の**折衝は多少の紛議を免れ難き形勢を示して居る

一町歩農作で一千圓收益

農家經營調査

從來農業は他の職業に比して頗る利益が乏しいと云ふ者が多く果して如何なるものかに於ては夫々の機關に依つて調査されつゝあるが石城郡泉村志賀某氏が田一町歩畑一町歩を以つて實際に經營調査した左の收支決算表に依ると一千三百六十九圓餘の益金に家族勞銀一千百四十六圓を加ふる時は優に二千四百餘圓の收益であるとそれから栗の湯を切り、これに原料に對する四割ばかりの白砂糖を加へ、外に小量の食鹽を入れてとう火で二三時間煮つめます。外に衣として白隱元を一升の栗に對する三合位をやはり水から度々とりかへてやはらかにしてそれを裏漉しにかけてお砂糖二百匁（三合に付）を入れとろ〳〵ににつめ、あまりかたくにつめぬやうにしてその中へ前に造らへておいた栗を入れて熱いうちに栗のこわれぬやう、御飯しやもちでよく下からかきまぜるのです。注意は衣をやはらかにしませんと、さめてからかたくなります

栗キントン

▼收入

主收入	三、四六三、一三〇
副收入	四四五、七〇〇
計	三、九〇八、八三〇

▼支出

種苗	二〇八、六二五
飼料	一〇七、六四〇
肥料	五〇一、八一〇
農產加工原料	八、四三〇
家族勞銀	一、一四六、〇〇〇
雇人勞銀	三三一、三四〇
建物	八一、五五〇
農具	八五、八〇〇
其他	四七、〇〇〇
計	二、五三九、六二五
收支差引	一、三六九、二〇五

不平受付

投書歡迎

惡水工事の技手　惡水豫防組合の金倉技手は此四月以來少しも現場に姿も見せず一体何をして居るのでせう、夫れ程用事がなければ町役場か郡役所邊りの役人に賴んでも組合費用を節減して貰ひ度いものです

（組合員）

伏見助役の答　そんな筈は斷じてありません、金倉君は任務に對して實に熱心な勉勵家です組合としても同君が居なくては非常に困るのでありまして投書の如き事は同君に對する單なる中傷で事實無根です

常磐片々

○

灌漑水に礦毒混入して內鄕村浮沈の大問題と村民怒る

○

相手は磐城炭礦と云ふ大會社

○

しかし今迄の交涉經過はノレンに腕押しらし

○

是れを他山の石と見て平町民たるもの心せよ

○

水道問題にて一營利會社との間に此跌を踏まざる事を

縣議選擧有權

平町役場に於ては過般來縣會議員選擧人名簿を作成中の處此程調査完了したが有權者は前年より百名を增し合計九百卅人で右は營業稅所得稅新規納稅者の增加に依るのであると

常磐地方の炭界を統一

三井の手にて

常磐炭界を統一すると云ふ噂がどこからともなくパッと擴がつて來た、それは東京の三井が北海道で三菱との競爭に負けたので方面を變へて常磐炭界の統一を企てゝ居ると云ふのである而して三井の重役某氏等が茨城縣多賀郡の茨城採炭や石城郡の炭礦を視察した筈で石城郡の何れかの炭礦が此の合併相談に乘るか判明しないが何れにしても小資本家は經濟界の變動ごとに惱まされてゐるから大資本家に合同さるゝ事は當然で結局常磐炭界の統一はやがて何等かの形式で現るる事にならうと

石城郡にてメートル法

使用の通牒

メートル法の使用に關しては小學校其他に於ても今春から其心理的敎育を施しつゝあつたが石城郡役所にては特別の理由あるもの以外は之れを使用すべしと此程町村役場學校各組合等に通牒を發した

大角力延期　栃木山

一行東京大相撲の平町興行は其後雨天の爲め更らに十日十一日の兩日に延期した

▶▶▶▶▶ヒロイモノ

△平町白銀町鈴木留藏氏は五日植田踏切にて五圓卅四錢在中の皮墓口△古鍛冶町大平アキ子は四日同町軌道踏切にて二圓五十錢及び伊藤の認印在中せる晶皮製墓口△白銀町荒木岩氏は同日同町にて卅五圓在中の風呂敷包△六丁目鈴木ヤス子は同日平驛前にて銀側懷中時計及び万年筆△一丁目安藤好松氏は三日仙台屋裏通りにて金指輪一個△長橋

募集

文藝其他一般投稿を募集します

町佐藤リウ子は一日自宅庭先にて銀側腕時計を夫々拾得此程平署に届出た

平町人事

▲婚姻

△新井村柏原忠厚氏（三二）同日葬里町武藤リン（二七）

▲死亡

△白銀町　藤田藤吉（三六）
△南町　鈴木タケノ（二五）
△三丁目　鈴木康一（三つ）
△極楽小路　田村婚太郎（六三）
△田町　仮田十一郎（三四）